

平成29年度認定 (No.81)

農業名人

花づくり名人 かみくぼ 上久保 きょうこ 京子

昭和32年生まれ 中川村在住



「みんなに愛される、そして笑顔にさせる花づくり」

自身の結婚を機に両親とともに約30年間農業を営んできた。昭和60年頃からトルコギキョウの栽培を始め、現在では花き栽培を中心に果樹、水稲などを経営する複合型の専業農家。当時、ピーマンの育苗に使用していたハウスが夏場になると空いてしまうことに着目し、夏場のトルコギキョウ栽培にいち早く取り組んだ。以降、夏場はトルコギキョウ、冬場はラナンキュラスの栽培に取り組んできた。(ハウス4棟50アール)

ハウス内での栽培管理は特に水管理に気を付け、ポンプで揚水した水は配水管を使い効率よく根本へ注水される。また、液肥管理を定期的に行うことで、高い品質を維持し続けている。パステル紫や白、ピンクを中心としたトルコギキョウ、白、赤、オレンジを中心としたラナンキュラス、ともにJAを通じて消費者へ届けられ、ピンクや白の花は主にブライダルへ使われているという。「幸せの門出に花を添える」花づくりのモットーはみんなに愛され、笑顔にさせること。

その人望から、平成21年9月からは中川村農業委員会委員を2期6年務めた。また、平成20年からは「なかがわ農村女性ネット」の会員として、多くの研修会や活動に積極的に参加し、平成26年には代表も務めた。現在も、保育園とのもちつき交流や中学校でのふれあい講座の講師として参画し、中川村の食育活動に意欲的に取り組んでいる。JA上伊那花卉部会の女性部員としても研修などに参加し、生産技術の向上には余念がない。現在は夫と農業に従事し、夫はトルコギキョウの育苗を手懸ける法人の役員も務めている。

「何も特別なことはしていないけれど、これからは今の施設を使って、みんなに喜んでもらえるような、笑顔になってもらえるような、上品な花づくりを目指して行きたい」と謙虚にこれからの目標を語る。

